



# 南房総の風し

## 全国学力・学習状況調査結果を校内研修で活用しましょう。

令和5年度全国学力・学習状況調査の結果が公表されました。自校の結果を校内で共有されましたでしょうか。全国学力・学習状況調査は、先生方一人ひとりの授業の積み重ねで育ててきた児童生徒の学力を確認する指標の一つです。教科に関する調査の問題には、学習指導要領に示されている「育成を目指す児童生徒の資質・能力」を見取るためのメッセージがたくさんあり、調査結果の分析を通して全ての先生が授業改善策を考えることができるなど、有意義な情報がたくさん含まれています。

### ★南房総教育事務所管内で課題が見られた問題

教科	問題番号	問題の概要	問題形式
小学校国語	1 二	図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する。	記述式
小学校算数	2 (1)	台形の意味や性質について理解している。	選択式
中学校国語	4 三	文章の構成や展開、表現効果について、根拠を明確にして考える。	記述式
中学校数学	9 (1)	ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明する。	記述式
中学校英語	9 (1) ①	未来表現 (be going to) の肯定文を正確に書く。	短答式

### ★管内で課題が見られた問題から考えられる効果的な指導ポイント

教科	令和5年度 全国学力・学習状況調査 報告書より引用
小学校国語	伝えたいことを明確にし、分かりやすく伝えるためには、どのような図表やグラフ等を用いるとよいかを児童が考えられるようにすることが大切です。教師が <b>図表やグラフ等を用いたモデル文</b> を提示したり、書いた文章を観点をもって <b>推敲したりすることが重要です。</b>
小学校算数	示された図形から向かい合った一組の辺が平行であること等、図形の意味や性質を見だし、その意味や性質を基に <b>図形を弁別</b> できるようにすることが重要です。これまで学習した図形を構成する <b>要素</b> や構成する <b>要素の間の関係</b> に着目して捉え直すことが大切です。
中学校国語	古典との距離を縮め、古典の楽しみ方を理解することが大切です。教科書掲載の現代語訳だけでなく、 <b>中学生等が楽しめる現代語訳等</b> を取り上げ、 <b>文章の構成や展開、表現効果等に</b> 着目して工夫を考えたり、古典の原文と <b>比較や関係付けたり</b> することが重要です。
中学校数学	ある事柄が成り立つことを構想に基づき証明することが大切です。図形の性質を考察する場面で、予想した事柄が <b>成り立つ理由</b> を筋道を立てて <b>数学的な表現</b> を用いて考え、説明したり、問題解決の過程を振り返り本質的な条件を見いだしたりすることが重要です。
中学校英語	場面や状況に応じて正確に英文を書くためには、 <b>文脈から適切な文の形式や時制を判断</b> することが大切です。既習の文法事項を適切に使い分けられるようになるためには、 <b>関連のある文法事項をまとめて整理し、使い方の理解を深める</b> ことが大切です。

「令和5年度全国学力・学習状況調査 授業アイデア例より」

課題が見られた問題から管内の児童生徒は、①正確な情報を取り出す、②根拠をもとに説明する、③複数の資料等から関連付けて説明する、の3点が特に弱いと捉えられます。

今後も各学校では、質の高い課題に対し、児童生徒が自ら考え自分の考えをもち、グループや学級で話し合いながら試行錯誤を繰り返しつつ解決に迫っていく授業を行っていくことが大切です。



# 学力向上に向けた各校の取組

## 小学校

1	自分の考えをノートに記述	47.7%
2	校内研修への位置づけ	41.3%
3	基本事項の定着	38.5%
4	家庭学習の充実	35.8%
5	ICT・タブレットの活用	28.4%
6	話し合い活動の導入	25.7%
7	朝読書・読書活動の充実	20.2%
8	主体的・対話的で深い学び	20.2%
9	朝学習	15.6%
10	めあてとまとめを自分の言葉で書く	15.6%

## 中学校

1	ICT・タブレットの活用	46.8%
2	自分の考えをノートに記述	41.9%
3	基本事項の定着	41.9%
4	話し合い活動の導入	35.5%
5	家庭学習の充実	24.2%
6	校内研修への位置づけ	22.6%
7	主体的・対話的で深い学び	22.6%
8	表現活動の充実	22.6%
9	考える時間の確保	21.0%
10	振り返りの場の確保	16.1%

その他 振り返りの場の確保 学習コンクール(月例テスト)

伝える活動(ペア学習・グループ学習)の充実 課題解決型学習 「R4 各学校の取組より」

## 成果を上げている学校が重点的に取り組んでいる学習活動

- ・ **自分の考えをノートに記述する**
- ・ 校内研修への位置づけ
- ・ 考える時間の確保
- ・ 話し合い活動の導入
- ・ ICT・一人一台端末の活用

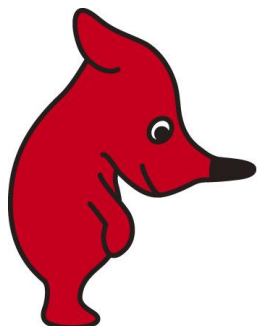
全職員・全教科  
で具体的な改善  
の視点を設定し  
ましょう。

小学校・中学校ともに多くの学校で「自分の考えをノートに記述する」という「書く活動」を意識した取組が行われています。管内では、全国学力・学習状況調査で成果を上げている学校についても「書く活動」を重点として掲げている学校が多いです。

今年度の調査結果の分析や、今後の改善方策を設定する際の参考にしていただき、調査結果の分析活用を校内研修に位置づけ、全職員で共通の課題意識をもって自校の学力向上を図りましょう。

- ◆千葉県総合教育センターwebページに掲載されている  
「令和5年度全国学力・学習状況調査活用の手引き」も  
是非ご活用ください。

千葉県総合教育センターwebページ  
URL : <https://www.ice.or.jp/nc/top/>



今後も南房総教育事務所は、学力の基盤となる毎日の授業において、記述することを重点とした  
**「自分の言葉で学習のまとめを書く」**を  
特に推奨し、**学力の向上を目指し**取り組んでいきます。